

県内新規就農相談・就農実現 「新規就農」なぜ広島に???



J A合併構想が進められる中であって、広酪が引き続き専門農協として残りたい思いを伝えられ、そのためには組合の様々な事業に積極的に参加して、組合組織を盛り上げてほしいと呼びかけた。

西中専務からは、近年の新規就農状況、消費税率の改定、肉用牛免税等、最近の酪農情勢について説明され、会員は質問を交えながら話を聞いた。

説明後、テレビ放送された、山田修さんと境葵さん、田島あゆみさんの特集番組を視聴し、会員からは「なぜ広島を選ばれたのか?」「北海道ではないのか?」といった疑問が多く寄せられた。

また、石井副調査役からは、購買品のキャンペーンや全酪連主催の酪農セミナーを紹介された。

新年会は、温泉川組合長の乾杯発声で始まり、会員はお互いの近況を報告し、昔話に花を咲かせ、終始賑やかで話題の絶えない会となった。

閉会にあたり福原美江さんが、「今年も一年元気に頑張りましょう」とあいさつされ、新年会を締めくくられた。

西部ミルク会(会長 東方田博子)は、会員六名の出席のもと、研修会・新年会を開催した。広酪からは、温泉川寛明組合長、西中晃専務、藤川依子技師(経営支援課)が出席し、全酪連三次事務所からは石井副調査役が出席された。

新年会開催 今年には災害の無い一年を願う 国の増頭奨励事業に高い関心



た。今年には皆が無事に一年過ごせるようお願い、酪農に従事したい」と願いを込めて挨拶された。

続いて、西中晃専務から最近の酪農情勢に触れて、二〇一九年度補正予算で都府県の生乳生産基盤を高めるため国の家族型酪農向けの施策として「乳用牛増頭・増産対策事業」の準備が進んでおり、これには成牛増頭分に対する一頭当たり二十七万五千円の奨励金が交付される見込みであり、これら要綱など詳細が分かれば、組合員の皆様に案内したいと説明し、これには参加者から大きな関心が寄せられていた。

庄原地域酪農振興会(会長 赤木靖)は、新年会を開催し、会員及び広酪・庄原市を含め十六名が参加し、広酪からは、西中晃専務、名越道弘主任(生産振興課)が参加した。

開会にあたり、赤木会長から「昨年は台風被害により、生乳廃棄や牛舎の浸水等、各地で災害が起きた。

三原・世羅地域合同 乳質改善研修会と新年会開催 酪農は日々の積み重ねと健康が大事！



三原市酪農振興会(会長 新舎和久)並びに世羅郡酪農振興協議会(会長 内海利彦)は、合同研修会と新年会を開催し、総勢二十名の参加があった。開会にあたり、世羅郡酪農振興協議会の内海利彦会長から「酪農は一日では結果が生まれません。日々の積み重ねで成り立ちます。健康に気をつけて頑

張って行きましょう」と挨拶された。

来賓挨拶では、広酪から温泉川寛明組合長が「消費者目線で安全・安心な生乳出荷をして欲しい。おらが組合・ワンチームで組合を盛り上げて行きましょう」と述べられた。

その後、西中晃専務(広酪)から酪農情勢の報告と、昨年四月に新規就農された方並びに今年四月にも酪農家としての新規就農者誕生の予定に触れて話題提供した。

この他、国の和牛・乳用牛の増頭・増産対策(生産基盤強化)事業による奨励措置について、この事業の要綱・要領、公募団体が決まり次第、組合員へ通知し、事業活用によって生乳増産に努めて戴きたいと述べた。

研修会では、乳質改善研修として上富士課長補佐(経営支援課)から、細菌数・乳房炎等で格差金負担が生じることとが無きよう、適正な洗浄水・洗剤濃度・洗浄水の温度に注意し、レシーパージャー回りのゴムパッキン類は年一回の交換を行うよう注意喚起した。

続く新年会では、地域間の交流を深め、様々な会話や笑いで盛り上がった。

榎野会長「地域内コミュニケーションを大切に」 新規就農から地域が活性化

あきたかた酪農振興会(会長 榎野大樹)は、新年会を開催し、会員・関係機関含めて二十七名の出席があった。来賓には児玉浩典議員を議長をはじめ、市議会議員七名が出席され、広酪からは温泉川寛明組合長、西中晃専務、盛崎伸治職員(生産振興課)が出席した。

榎野会長からは「今年もお互いにコミュニケーションを取り合い、一致団結して頑張って行きましょう」と挨拶され、続いて、温泉川組合長からは、第九次三カ年計画に掲げる「消費者目線 おらが組合・ワンチーム」それは意識し続けることから始まる」とのキャッチフレーズを提案し、組合事業の利用でしっかりと支えて頂きたいとお願ひした。

また、西中専務からは最近の酪農情勢を説明し、乳用後継牛増頭奨励事業(二頭当たり二十七万五千円)を紹介したところ興味をひき、関心の声寄せられた。

懇親会では、終始和やかに進み、地元の市議会議員も出席されていたこともあり、こういった場に議員が多数集まることは珍しく、安

芸高田市のバックアップ体制が伺えた。

議員からは、酪農廃業が続く状況下にあつて新規就農もあり、特に田島あゆみ組合員の就農・活躍が地元市町で活気をもたらしていると聞いた。芸高田市の成人式では田島組合員が新成人に向けて「広い視野で挑戦して行ってほしい。三十七カ国を回ってきた経験を踏まえ、志を高く理想を持って取り組むことで、自分に成功や利益をもたらす」とメッセージを贈られ、若い人に刺激を与えたのではないかとあつた。

また、二泊三日の北海道スキートに行かれた際、酪農ヘルパー事業があつたからこそ実現出来たとの感謝の言葉があつたが、広酪としては、酪農ヘルパー員の役割調整に苦勞しながら、組合員の支援体制を頑張っている現状から、縁の下力持ちの部分へも目を向けて頂きたいと行政支援をお願いした。会員にとって、今年一年頑張って行く中で、大変活気をもたらした新年会であつた。

甲奴郡酪農組合

一月二十七日 東部倉庫

山内酪農

一月九日 J A庄原西支店

令和元年度通常総会

上程議案全て承認

新規加入に歓迎と期待の声

支決算の承認、「令和二年度事業計画及び予算案の承認」、「令和二年度における賦課金徴収」の三議案を全て可決承認した。

開会にあたり、道田稔弘組合長からは「四月から乳価テールが変更となるので、乳質の良い生乳を多く出荷して行きましょう」と挨拶を述べられた。

続いて、温泉川寛明組合長(広酪)からは、新年の挨拶に加え、最近多発する抗生物質の混入やバルクスイッチの入れ忘れ等による温度異常によって、生乳廃棄が生じていることに対して注意を促し、この他、四月から始まる中国五県統一乳価評価テーブルの導入にあたり、「他県に格差金を持って行かれないように消費者目線で安全・安心の生乳を出荷して欲しい」と要望した。

甲奴郡酪農組合(組合長 道田稔弘)は、令和元年度通常総会を開催し、組合員十五名の内実出席九名、委任状一名の出席をもって、総会は有効成立し、「令和元年度事業報告及び収



入に頼らざる得ない状況や、国の補正予算としては二〇一九年十二月に農業生産基盤強化プログラムを作り、和牛・乳牛の増頭・増産対策事業として一頭あたり二十七万五千円の奨励事業について今国会での審議がなされており、公募団体と要綱・要領が公表され次第に案内することを伝え、次年度以降の乳用牛導入事業希望調査への協力、第九次中期三カ年計画のキャッチフレーズ(案)としては、消費者目線「おらが組合・ワンチーム」を紹介し、一丸となって相互扶助の精神をもって、社会的責任のもとに社会貢献に取り組み、二〇二〇年十月からの広酪の就業規則の変更等について説明した。

その後の新年会は、山陽乳業(株)の中山篤志顧問の乾杯発声によって始まり、出席された総勢二十名の中で四月に就農し、新規加入する予定の山田修さんと境葵さんが紹介され、歓迎ムードの中で終始和やかな年初めの会となった。

山内地区新年会

若い力に期待

庄原市山内地区の酪農家二戸、元酪農家、広酪、JAが参加した新年会が行われ、広酪からは温泉川寛明組合長、西中晃専務、名越道弘主任(生産振興課)が出席した。

藤岡辰彦組合員からは、「山内地区も高齢化が進んでおり、今こそ若い力が必要。若い人に地域を盛り上げて貰いたい。また、日頃から支援頂く広酪並びにJAに感謝する」と述べられた。

懇親会では、地元の堆肥作りの話や地元庄原産米の東京進出の話題等で盛り上がり、地域活性化のためそれぞれ情熱をもって奮闘されている様子が聞かれ印象的であった。

